



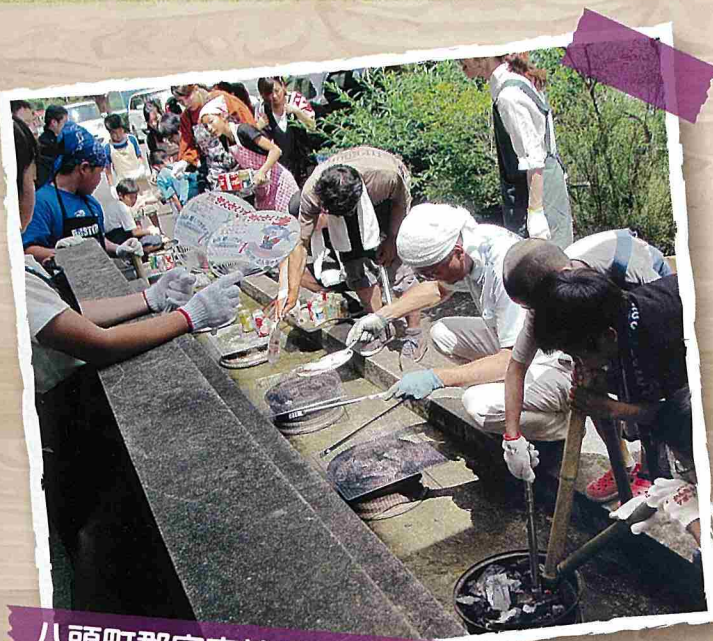
平成29年度食のみやことっとり キラリと光る食育推進活動

知事表彰

とっとりの食育

第6回
表彰事例集

県内では、数多くの団体が様々な視点で食育活動に自主的に取り組んでいます。
地域の特性を活かし意欲的に取り組まれている活動を表彰しましたので紹介します。



八頭町郡家東地区公民館



岩美町役場

鳥取県のこれからの食育で大切にしたい 2つの基本指針

豊かな人間性を育む食育 ～「栽培・料理・共食」の実践～

私たちは毎日食事をして生活していますが、その食事は、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育てていく基礎となります。家庭や地域で家族や友人と一緒に囲む食卓は、人と人を結ぶ大事なコミュニケーションの場です。

五感すべてを使う栽培、収穫、料理などの体験を通じて、自分の手で成し遂げる喜びを積み重ねることで「生きる力」の基礎を育み、食べることは命を受け継ぐことであることを実感し、「食」や「食」を支える全ての人、自然の恩恵に対する感謝の心を養うとともに、生産から消費までの「食」の循環や食品ロスの削減など環境に配慮した食育にもつながっていきます。

食のみやこである鳥取県の 特性を生かした食育

鳥取県は、豊かな大自然と四季折々の気候風土に恵まれていて、県内各地で米・野菜・果物・畜産物などをバランスよく生産しており、全国的にも有名な特産物が多くあります。また、水産業も各地で盛んに行われています。

このような豊富な食材を使った地域独自の食文化や郷土料理がたくさんあり、伝承活動が盛んに行われています。

さらに、都市部に比べて、農林水産業の現場と消費者との距離が近く、食を身近に感じることができる利点もあります。

アウトドアクッキング

八頭町郡家東地区公民館

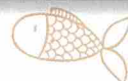


団体の概要

所在地：八頭町稲荷 195-1
連絡先：0858-76-0335



工夫したこと



- ・活動のノウハウは、八頭郡レクリエーション協会に協力を依頼した。
- ・災害等が起きた場合でも身の周りで調達が可能である、地域の自然資源や廃棄物を再利用している。

【具体例】

竹林から竹を採り、竹炭を作成。七輪の代わりに車のホイールを利用。空き缶で炊飯し、食器として利用。刈り払い機の使用済みの刃をホイール七輪の中敷きとして利用。



活動の概要



小学5年生で学習する防災教育の機会に、食の体験等を通じて「生きる力」を育むため小学生PTA活動の親子学習のプログラムとして提案し、電気・ガスが止まった状態でもできる調理の体験をする。地域の自然資源や、廃棄されるものを活用して、調理道具を作成し、資源を循環させている。

地区公民館、中央公民館、小学校PTA、地域団体（八頭郡レクリエーション協会）と連携して実施している。また、近隣の小学校でも範囲を広げて実施している。

活動の成果



非日常的、不自由な中で、子ども達が自ら工夫して調理に臨んだことで、「初めて火吹き竹を使って、火おこしが大変だった」、「もしもの時のために覚えておきたい。家族にも料理を紹介したい」など、当たり前な生活や食事ができるありがたさに気づいたり、もし災害が起こっても食事を作ることができるという自信を身に着けた様子を確認できた。

毎年好評で、約40人の児童に対し、保護者や兄弟が複数参加されている。以前に保護者として参加された方が、地域で協力者として関わるなど、地域活動の活性化につながっている。



- ・防災教育と食育を結びつけた点に独自性があり、工夫がある。
- ・毎年実施することで、子ども達が災害時でも食事を作ることができることを理解している様子がうかがえる。
- ・幅広い関係者とも連携しており、さらなる広がりも期待できる。

岩美っこの食育ボード

岩美町役場



団体の概要

所在地：岩美町大字浦富 675-1
連絡先：0857-73-1415



工夫したこと

当初、職員が翌日の給食食材の掲示を行っていたが、食への興味につなげるため、年長児が主体となって掲示することを考案した。当番制で担当することで、年長児全員がまんべんなく関われるようにした。

1保育所で発案された取組であったが、子ども達の反応も良かったため、給食担当の職員間で情報交換、検討を行い、全保育所での実施につなげていった。

また、「食育ボード」は保育所玄関に設置し、送迎時保護者も気軽に見ることができるようにしている。

活動の概要

岩美町保育所食育計画では、年長児及び年中児のねらいとして「食べ物と健康の関係に関心を持つ、理解する」を掲げており、子ども達へ伝える手法の一つとして、食材に含まれる栄養の働きを色別する3色栄養群の「食育ボード」を作成した。

この「食育ボード」に年長児が当番制で給食食材の掲示を行う取組で、町内全保育所で共通した内容で実施され、卒園後も小・中学校での食育活動の基礎となっている。

活動の成果

活動を通じて、子ども達は食べ物の名前をはじめ、栄養素の働きや野菜の旬などを知ることができ、自分の健康に関心がもてるようになった。

町内全保育所で共通内容の食育活動が推進できており、卒園後も小・中学校の栄養教諭等が行う食育学習の基礎につなげられている。



- ・ 掲示を子ども自身が行うことで食や健康への関心がもてるようになり、事業を実施する中でより効果を高める方法を導入している。
- ・ 1保育所で実施していた取組が町内全保育所で展開されており、波及効果が目に見える形で現れている。
- ・ 就学前から食についての意識付けができる取組で、小、中学校に向けての基礎ともなり評価できる。

食を通じて健やかに「生きる力」を育むために

食のみやこととり～食育プラン～（第3次）より

鳥取県では、「『栽培・料理・共食』を実践し、食を通じて『生きる力』を育み、心身ともに充実した生活を実現すること」を県民の目指す姿とし、食育を推進していくこととしています。

食育を総合的かつ計画的に推進するため、県の関係組織が連携・協力しながら取り組むとともに、家庭（県民）、保育所・幼稚園、学校、生産者団体、食品事業者、地域の団体、市町村等、関係機関とともに鳥取県のこれからの食育を推進していきます。

食を通じて健やかに「生きる力」を育み、心身ともに充実した生活を実現する

基本方針

- 豊かな人間性を育む食育～「栽培・料理・共食」の実践～
- 食のみやこである鳥取県の特性を生かした食育

県民みんなで実践する5つの重点目標と14の目標

重点目標

ライフステージに応じた健全な食習慣を実践する

食に対する感謝の心を養う

食の循環や環境を意識した活動を実践する

豊かな食文化を継承する

食に関する正しい知識を持つ

目標

家庭や地域で家族や友人と楽しく食卓を囲む

主食・主菜・副菜を揃えた食事をする

1日3食、規則正しく食事をする

食と農林水産業の関わりを理解する

体験活動を通して

食事づくりや準備に関わる

食事のあいさつを実践する

食べきり運動等による食べ残しの削減を行う

余剰食品等を有効に活用する

地元のおいしい食材の良さを学び活用する

地域の郷土料理を学び、継承する

ととりの食を情報発信する

食の安全について正しく理解する

食品表示を参考に食品を選択する

食生活と生活習慣病の関わりを学ぶ

鳥取県食育推進活動知事表彰について
鳥取県食育推進計画について

<http://www.pref.tottori.lg.jp/206386.htm>
<http://www.pref.tottori.lg.jp/82928.htm>